２０２３年度事業計画

＜公益財団法人電通育英会の事業目的の確認（定款第 3 条より）＞

この法人は、優秀でありながら経済的理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供および大学生等の人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

＜2023 年度事業計画について＞

重点施策
・奨学生採用数の拡大、海外留学・活動支援の拡充
・奨学生、OBOG 交流促進施策の強化
・奨学事業を支える新奨学生データベースの構築
・助成事業の対象地域拡大、助成スキームの継続的向上

１－１　大学生への奨学金給付事業　＜公益事業１＞

（１）大学生への奨学金給付（高校時予約採用）
2023 年度の大学進学予定者の募集・選考の結果、採用内定者とした 99 名、及び前年度に内定している一浪生 18 名を合わせた 117 名の内定者のうち、2023 年 4 月に当財団指定の大学に入学した者に対し、2023 年度採用者として奨学金の給付を開始する。
2023 年度は、100 名の採用を見込んでいる。（過去 3 年間に採用された 276 名と合わせて 376 名を見込む。）

＜大学奨学生の採用推移＞　＊2023 年度採用（1 年生）は想定人数。

	一般枠
2020 年度採用（4 年生）	88 名
2021 年度採用（3 年生）	89 名
2022 年度採用（2 年生）	99 名
2023 年度採用（1 年生）	100 名*
2020～2023 年度の採用数合計	376 名

※2020 年度採用より、一般枠と芸術枠を統合

★大学生 奨学金（入学一時金 30 万円・受験等助成金 10 万円を含む）

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
3 億 4,996 万円	3 億 4,662 万円	3 億 5,584 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：募集人員拡大により採用増を見込むため

（２）大学奨学生を対象とした「海外留学・活動支援金」の給付
奨学生が広い視野を持ち、グローバルに活躍できる人材として成長する一助となることを目的に、2014 年度に「海外留学・活動支援制度」を開始。2021 年度からはコロナ禍によって海外渡航が制限されている状況に鑑み、オンライン留学への支援を拡充した。2023 年度は活動費、渡航費の改訂による支援の拡充を図る。

★大学生 海外留学・活動支援金

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
1,000 万円	917 万円	1,400 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：活動費、渡航費の改訂による支援拡充のための増加

１－２　大学院生への奨学金給付事業　＜公益事業１＞

（１）大学院生への奨学金給付

電通育英会大学奨学生に対して 2023 年度の大学院進学予定者の募集を 2022 年 2 月に行い、奨学生選考委員による書類選考および面接選考の結果、41 名を内定とした。その内 4 名が就職・休学・不合格により辞退となったため、2023 年度進学の内定者は 37 名（文系 5 名・理 31 名・芸術系 1 名）となった。2023 年 2 月最終確定がなされ、37 名の大学院進学が決定し 2023 年度正式採用となった。2023 年度は、2022 年度採用の 19 名と合わせて 56 名となる。（2022 年度の大学院奨学生　46 名から 10 名増）

また、2024 年 4 月大学院進学希望者の募集・選考作業は、下記のとおり実施する。

①給付対象：　・当財団の大学奨学生で、書類提出やセミナー参加などの奨学生の義務を果たしていること
・キャリア形成上、修士課程への進学に必然性が認められる者
・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者

②採用者数：　40 名程度

③給付金額：　月額 8 万円（最長 2 年間給付）

④選考方法：　大学 3 年生対象に 2023 年 2 月に募集
5 月奨学生選考委員による書類選考と面接選考、6 月に理事長が内定決定。
2024 年 4 月に当財団指定の大学院に進学した者を奨学生として採用。

★大学院生 奨学金

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
4,416 万円	4,160 万円	5,376 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：2021 年度から理系学生も対象となり大学院進学者が増加

（２）大学院奨学生を対象とした「海外留学・活動支援金」の給付

奨学生が広い視野を持ち、将来、グローバルに活躍できる人材として成長する一助となることを目的に、2014 年度に「海外留学・活動支援制度」を開始。2021 年度より大学奨学生と同様に、オンライン留学への支援を拡充した。2023 年度は活動費・渡航費の改訂による支援の拡充を図る。

★大学院生 海外留学・活動支援金

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
250 万円	0 万円	300 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：奨学生の増加に伴う※大学院生の 2022 年度海外留学実績はなし

＜参考＞今後３年間の奨学生数の推移予測

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
大学奨学生①	14 年目 368 名	15 年目 376 名	16 年目 388 名	17 年目 399 名
大学院奨学生②	10 年目 46 名	11 年目 56 名	12 年目 77 名	13 年目 80 名
合計①＋②	414 名	432 名	465 名	479 名

２．奨学生対象のセミナー等の実施　＜公益事業 1＞

（１）奨学生全員に対する「奨学生の集い」の実施

2022 年度は 11 月に東京ドームホテルにて 3 年ぶりに対面で実施した。
2023 年度も引き続き東京ドームホテルにて 11 月に実施する。

・参加者：現役奨学生全員（約 400 名）、OBOG の参加希望者、大学関係来賓、
　　電通育英会役員・奨学生選考委員
・講　演：未定
・開催日：2023 年 11 月 3 日
・会　場：東京ドームホテル

★「奨学生の集い」関連費　＊奨学生の交通費含む

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
1,559 万円	1,602 万円	1,796 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：奨学生増加に伴う参加者増加および会場費・運営費の増加

（２）大学 1 生セミナー、2 年生セミナーの実施

大学 1 年生に関しては、今年度から奨学生同士の交流を強化すべく 9 月に 2 泊 3 日の合宿形態で実施する。大学 2 年生は、引き続き 9 月に 1 泊 2 日の合宿形態で実施する。
それぞれコミュニケーション・スキルやアイデア発想力の育成などをテーマとして、グループ討議、プレゼン演習並びに奨学生同士の交流・懇親を図り、次世代人材を育成する一助とする。
カリキュラムについては、次世代リーダーシップ人材育成の観点から検討を行う。

1 年生セミナー：コミュニケーション研修
・講　師　　：未定
・開催日　　：2023 年 9 月 16 日（土）～18 日（月・祝）
・会　場　　：L stay＆grow　南砂町（東京都江東区）

2 年生セミナー：アイデア発想力養成研修
・講　師　　：Creative Project Base 倉成英俊、電通 B チーム講師 若干名
・開催日　　：2023 年 9 月 9 日（土）～10 日（日）
・会　場　　：L stay＆grow　南砂町（東京都江東区）

★「大学生 1・2 年生セミナー」関連費　＊奨学生の交通費含む

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
1,555 万円	1,095 万円	1,833 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：集合研修での実施を想定。カリキュラムの強化により増加

（３）大学３年生セミナー、大学院生セミナーの実施

次世代リーダーの人材育成支援として、大学 3 年生に対しては自らのキャリアデザインに関するセミナーを、就活時期に合わせて 5 月に 1 泊 2 日の合宿形態で実施する。活躍する社会人と接する機会を設けるべく電通育英会 OBOG に参加いただく。大学院生に対しては社会課題への取り組みを意識しつつアイデア発想で課題解決を図るセミナーを、実施方法も含めて検討する。

大学３年生セミナー：自己分析とキャリアデザイン研修

・講　師　：WiLL Institute 熊谷智宏、田中杏奈

・開催日　：　2023 年 5 月 20 日（土）～21 日（日）

・会　場　：　L stay＆grow　南砂町（東京都江東区）

大学院生セミナー　：次世代リーダーを意識したアイデア創造のための研修

・開催日／会場：未定

★「大学３年生・大学院生セミナー」関連費　＊奨学生の交通費含む

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
1,428 万円	812 万円	1,391 万円

（４）修了生交流会

2024 年 3 月に卒業・修了予定の大学・大学院奨学生を対象として東京会場にて実施する。卒業・修了後の各界での活躍を期待して、当財団の選考委員とともに電通育英会 OBOG も参加し、電通育英会ネットワークによる以後の交流を図る。

・参加者：卒業・修了予定の奨学生（約 110 名）、OBOG の参加希望者、奨学生選考委員、電通育英会役員

・開催日：2024 年 3 月中旬

・会　場：帝国ホテル

★「修了生交流会」関連費　*修了生の交通費含む

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
711 万円	801 万円	774 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：会場費、運営費増加のため。

（５）つながりの創出強化のための「＆i」コミュニティスペース運営と「奨学生交流支援制度」

電通育英会の奨学生限定サイトは奨学生情報収集と記録のためのマイページであったが、奨学生からの情報発信や対話の機能を高めた奨学生の交流サイトとして「＆i」コミュニティスペースを 2021 年 12 月にオープン。2022 年度は、このサイトの可能性を試行錯誤する 1 年となった。

運営面では、奨学生の声を反映し奨学生がリードするサイト運営を目指して、奨学生によるサイト運営協力チーム「コミュニティー・リーダー（CL)」を募集し、常時 7 名～10 名を採用して、「＆i」を拠点とした CL による奨学生同士の情報発信や交流促進の活動を展開した。

およそ 1 年間の活動を経て、奨学生交流会の開催や、進路を悩む大学生に対する大学院奨学生との接点づくり、加えて奨学生 OBOG との交流などの活性化の方向性が見えてきた。

2023 年度は、「＆i」による奨学生同士の掲示板的な交流機能に加え、CL を主体とした奨学生同士の交流活動の促進を目的として「奨学生交流支援制度」を導入し各種交流活動促進に努める。

★＆i コミュニティスペース関連費

2022 年度実績見込	2023 年度予算
400 万円	540 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：「奨学生交流支援制度」導入に伴う増加

３．新奨学生データベースの構築＜公益事業１＞

（１）現奨学金管理システムの老朽化、複雑化
2006 年に当時の貸与型奨学金を管理するために構築された現行の「奨学金管理システム」はシステム基盤・インフラ基盤が老朽化しており、セキュリティリスクの観点からも全面的な改修が必要な状況である。当初の貸与型奨学金管理に加え給付型の管理機能、大学院奨学生の管理機能を付加する等、長年の改修によりシステムも複雑化し、改修対応も困難になってきている。
（２）奨学金の管理から奨学生のデータベースの構築へ
奨学金管理システムの全面改修にあたり、ゼロベースでシステム構築の目的そのものを見直し、奨学金を管理するためのシステムから奨学生一人一人の顔の見える奨学生の人材データベース構築を行うこととした。以下の方針によりシステム構築を行い、2025 年度の採用業務（2024 年 4 月）から活用する予定。
・セキュリティの向上
　システム基盤を刷新、クラウドの活用によるデータ一元管理
・今後の環境変化への対応
　汎用性の高いプログラム基盤を用いること、クラウドの活用で OS や端末に依存しない
・奨学生の管理機能の強化
　画像ファイルや様々なデータを一元管理することで一人一人の顔の見える人材データとしてデータベースを構築、検索機能を強化
・業務の効率化
　現行業務プロセスに基づく設計によりデータ入力を最小限にし、検索機能、出力機能を強化
・トータルコストの削減
　クラウドサービスの活用によるインフラ基盤のコスト削減とテンプレート型システム構築サービスによる設計（PostgreSQL や PHP などのオープンソースのソフトウェアを基盤とするキッセイコムテック社のシステム構築用テンプレートを活用する）

奨学金管理システムリニューアル設備投資予算

2022 年度改修費実績見込	2023 年度予算
(2022 年度は改修実績なし)	3,000 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：システムの全面リニューアルのため増加

４．大学教育における人材育成に役立つ調査データ・情報の提供　＜公益事業 1＞

（１）会報誌「IKUEI NEWS」の発行（年 4 回）
奨学生や高等教育関係者への有益な情報提供を目的に、会報誌「IKUEI NEWS」を年 4 回発行。奨学生（OBOG 含む）、大学関係（学長・広報）、対象高校に加え、全国の図書館、新聞社、教育研究機関等に向けて各号約 4,500 部を配布。
2023 年度は 1963 年の設立から 60 周年を迎えるため、60 周年のテーマを「つながり、学び合う。」として、財団と学生（大学）、学生同士、学生と OBOG など、さまざまな「つながり」を強化するための施策（編集委員を奨学生から募集、60 周年記念別冊制作等）を行う。
「ネットワーク”を広げよう」を年間テーマに各号の特集は以下のとおり。

	発行月	特集テーマ
Vol.102	2023 年 4 月	つながるコミュニケーション
Vol.103	2023 年 7 月	知をつなげ、深める
別冊	2023 年 7 月	財団 60 周年記念「リーダーシップを考えよう」再録特集
Vol.104	2023 年 10 月	国を越えて異文化とつながる
Vol.105	2024 年 1 月	つながりのカタチを再考する

★会報誌関連費

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
3,500 万円	3,240 万円	4,000 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：60 周年記念別冊制作費、奨学生編集委員の費用による増加

（２）調査研究

2023 年度は、以下 2 件の調査研究を実施する予定。

1　桐蔭学園（桐蔭学園 理事長／桐蔭横浜大学 教授　溝上慎一氏）と共同で実施するトランジションに関する調査研究

「主に高校生・大学生・若年成人（主に初期キャリア期の 20 代社会人）を対象とした学校から仕事・社会へのトランジション（移行）に関する調査研究」

共同研究者　武田佳子教授（桐蔭横浜大学）／登本洋子教授（東京学芸大学）／溝口侑講師（桐蔭横浜大学）

2　立教大学（経営学部　中原淳研究室）と共同で実施するトランジションに関する調査研究

「学校から仕事・社会へのトランジションに関する研究推進の一環として若年労働者の初期キャリア形成に関する研究」

共同研究者　畑野快准教授（大阪府立大学）／田中聡助教（立教大学）／池田めぐみ助教（東京大学）

★調査関連費

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
1,914 万円	1,728 万円	1,364 万円

＜2023 年度予算減少要因＞：　「大学生キャリア意識調査 2022」の実施費用が減少

（３）「リーダー育英塾」

「高大社連携を意識したトランジション教育改革」を教育界で推進していく「次世代リーダー」の育成を目的に、2018 年から「リーダー育英塾」を開始。第 1 期生（2018 年）から第 4 期生（2022 年）まで 144 名*の OBOG を輩出。＊第 3 期生（2021 年）42 名はオンライン開催

コロナ禍で学校改革が進み、リーダー育英塾 OBOG の活躍が報告されている。2023 年度も第 5 期リーダー育英塾の開催を計画している。

＜第 5 期リーダー育英塾＞

・日程／2023 年 8 月 12 日（土）～14 日（月）＜2 泊 3 日の合宿＞
・会場／ L stay＆grow　南砂町（東京都江東区）
・募集対象者／教育現場を持っている、高校又は短期大学・大学等の関係者 30 名程度
・募集方法／3 月下旬より電通育英会ホームページにて募集を開始予定（事前課題有）。応募締切は 4 月末予定。選考は講師およびファシリテーター。
・参加費／　無料（ワークショップ・宿泊・食事・懇親会に関わる費用）
※交通費、会場での OA 備品等のレンタル等、個人に関わるものは自己負担
・監修・講師／溝上慎一（桐蔭学園 理事長／桐蔭横浜大学 教授）、
中原 淳（立教大学 経営学部 教授）
・外部講師／田中研之輔（法政大学キャリアデザイン学部 教授）

※なお、今回よりリーダー育英塾 OBOG の活動支援のための情報交換の場として、希望者は第 5 期生の 8 月 14 日最終日の発表とその後の懇親会に参加する。

また、リーダー育英塾の活動を教育関係者と広く共有するためのカンファレンスを、以下のとおり開催する予定。

＜リーダー育英塾カンファレンス２０２３＞

・日程／2023 年 11 月 12 日（日）　オンライン開催
・テーマ／「ウェルビーイングを目指した組織づくり・学校づくり」
・内容／基調講演およびリーダー育英塾の活動・成果報告とディスカッション他
・募集対象者／中学校・高等学校・大学等の教職員および教育関係者（企業の人材育成関係者等）200 名程度
・募集方法／電通育英会ホームページにて募集予定
・監修／溝上慎一（桐蔭学園 理事長／桐蔭横浜大学 教授）、中原 淳（立教大学 経営学部 教授）
・講師／教育関係者：住田 昌治（学校法人湘南学園 学園長）、小巻 亜矢（サンリオエンターテイメント代表取締役社長）

★リーダー育英塾関連費

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
1,635 万円	893 万円	1,051 万円

＜2023 年度予算減少要因＞：第 3 期生希望者を第 4 期に 1 泊 2 日にて参加させた費用が減少、第 5 期に OBOG が参加する費用が増加。カンファレンスはオンラインに固定

５．学生を対象とする次世代リーダーの育成活動に対する資金助成＜公益事業２＞

2023 年度は 15 団体を採択した。各助成団体に対して、四半期毎の面談を実施して活動助成を行う。また、助成団体同士の交流を通じた学びの場としての交流会をオンラインで開催する予定。

★人材育成活動助成事業関連費

2022 年度予算	2022 年度実績見込	2023 年度予算
1,496 万円	1,476 万円	1,545 万円

＜2023 年度予算増加要因＞：助成金申請額の増加のため

2023 年度助成団体（15 団体）

iGEM-TOYAKU （東京薬科大学公認団体） ＊助成申請額：45 万円	**「理系大学生が始めるサイエンスコミュニケーション活動～合成生物学で科学と社会をつなぐ～」** 科学を学ぶ学生として、科学と社会の距離を縮めるために、イベントの企画、開催を通した、科学を伝えるサイエンスコミュニケーション活動。
近江楽座とよさと快蔵プロジェクト （滋賀県立大学公認団体） ＊2022 年度助成団体 ＊助成申請額：70 万円	**「とよさとの空き家改修の現場を生かしたまちづくり人材の育成」** 2022 年度助成時に手掛けている物件の改修作業に引き続き取り組む。ワークショップ活動に力を入れ、企画や教育を通して自立し、地域の多くの人たちと協力しながらリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
学生 NGO ALPHA （東京外国語大学公認団体） ＊助成申請額：100 万円	**「フィリピン・イロイロ州等における建設活動」** フィリピンの教育支援を目的として、学生メンバーがフィリピンに渡航し、現地の学校側に求められた教室の建設活動及び現地の子供たちを対象に授業を行う。

NPO 法人キリンこども応援団 ＊助成申請額：100 万円	**「学生が主体となった不登校の子ども達の居場所創りと宿泊体験事業」** 教職員志望の大学生が主担当になって、不登校・ひきこもりの子ども達の居場所創りを実施していく。学生が主体的に取り組みつつ、子ども達の気持ちに寄り添った事業となるようサポートする。
認定 NPO 法人 CLACK ＊助成申請額：100 万円	**「IT リーダー育成大学生向けプログラム」** 経済的な困窮、ヤングケアラー、不登校などの状態にある高校生にプログラミングとキャリアについて考える機会を提供する講師を大学生が担い、将来 IT リーダーとなる大学生を育成する。
一般社団法人子ども未来塾 ＊助成申請額：100 万円	**「社会教育の視野を持つ児童体験活動推進リーダーの育成」** 学童期（小中学生）での参加体験継続を経て、ひとつ上の段階である「体験活動グループリーダー」（高校生レベル）と体験活動全般の企画運営全般を行う側となる「育成リーダー」（大学生レベル）を養成する。
NPO 法人里地里山問題研究所 ＊助成申請額：100 万円	**「農村課題を人呼び込む資源にする！逆転の発想で地域活性化を図る人材育成のための耕作放棄地ワークキャンプ」** 獣害や耕作放棄地の増加、景観や山林の荒廃、伝統行事や祭礼の継続困難等、多様な課題を抱える農村において課題を資源に変換し様々なアイデアで農村に人を呼び込み地域活性化を図る人材育成の為のワークキャンプ。
NPO 法人 SET ＊助成申請額：100 万円	**「地域の担い手が育ち続ける好循環を創り出す大学生リーダー育成事業」** 岩手県に住む中高生を対象に、県内外混合の大学生チームによる地域社会の課題を解決するワークショップの企画運営及びプロジェクトの伴走支援を行い、持続可能な形で地域社会の担い手となるリーダーを育成する。
認定 NPO 法人底上げ ＊助成申請額：100 万円	**「学びのコミュニティを通じた次世代リーダーの育成事業」** 震災から 10 年が経過し、東北における次世代リーダー不在が顕在化しており、学びのコミュニティ事業とフィールドワーク事業を実施することで、東北に関わる次世代リーダーの育成と繋がりの強化を目指す。
第 39 期日韓学生フォーラム ＊助成申請額：80 万円	**「第 39 期日韓学生フォーラム」** 日本開催のメインフォーラムにおいて、日韓関係からグローバルな社会問題まで幅広い関心層の学生が日本と韓国から一同に会し、英語による学術討論・国際交流を行い、社会に貢献できる人物の育成を目指す。
NPO 法人とめタウンネット ＊助成申請額：100 万円	**「登米・高校生による地域経済研究所プロジェクト」** 地元への愛着が未熟なまま登米市を離れる高校生が多いことから、登米市の魅力を活かした地域活性化を牽引する若手リーダーの育成として「登米・高校生による地域経済研究所」を立ち上げ自主的な企画・実施を促す。

日中学生会議 ＊2022 年度助成団体 ＊助成申請額：50 万円	**「第 42 回日中学生会議」** 約 3 週間、中国の５都市を訪問し、討論・フィールドワーク・文化交流を行い、日中両国の学生が共同生活を通して友好を深め相手国及び自国について再考するきっかけとなり日中の懸け橋となる人材を育成する。
NPO 法人ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン ＊助成申請額：100 万円	**「ハビタット・ユース・リーダー育成プロジェクト」** 全国学生宿泊研修を実施し、他者の個性を活かしながら自身の個性を発揮できるリーダーを育成する。この研修を経た学生たちがそれぞれの地域に戻り、地域課題を発見しそれに対するアプローチ方法を企画し実施する。
認定 NPO 法人まなびと ＊助成申請額：100 万円	**「外国人支援を通じた、大学生に対するグローバル人材育成事業」** 地域に住む外国人に対して、地域の日本人との生の会話を通じて日本語を学びながら人との関わりを得られる日本語教室において活動する大学生が課題と向き合い取り組むことで地域社会に貢献する。
有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所 ＊2022 年度助成団体 ＊助成申請額：100 万円	**「若者のシビックプライドを育む** **「下京・ローカルグッド・メンバーズ」の育成** **（旧：下京・ソーシャルグッド・レポーターズ）」** 「下京・ローカルグッド・レポーターズ（2 期生）」の事業を展開し、1 年目の参加学生が次の参加学生を育む循環を生み出し、自立的なローカル人材育成制度の創出を目指す。

2023 年度主要行事　年間予定表

	日　　程	場　　所
2023 年		
新奨学生オリエンテーション	5 月 11 日（木）、12 日（金）	オンライン開催
大学３年生セミナー	5 月 20 日（土）、21 日（日）	L Stay&Grow 南砂町
第４２回理事会	6 月 6 日（火）11：00～	帝国ホテル 松の間
第１３回定時評議員会	6 月 22 日（木）11：00～	帝国ホテル 松の間
第４３回理事会（臨時）	6 月 22 日（木）14：00～	帝国ホテル　松の間
大学奨学生選考委員会	8 月上旬	電通銀座ビル 8F 会議室
第５期「リーダー育英塾」	8 月 12 日（土）～14 日（月）	L Stay&Grow 南砂町
大学２年生セミナー	9 月 9 日（土）、10 日（日）	L Stay&Grow 南砂町
大学１年生セミナー	9 月 16 日（土）～18 日（月）	L Stay&Grow 南砂町
大学院生セミナー	10 月上旬	未定
第２８回資産運用委員会	10 月 20 日（金）13:30～	電通銀座ビル 4F 会議室
奨学生の集い 2023	11 月 3 日（金・祝）	東京ドームホテル
リーダー育英塾カンファレンス 2023	11 月 12 日（日）	オンライン開催
第４４回理事会	11 月 17 日（金）11:00～	電通銀座ビル 8F 会議室
2024 年		
助成団体選考委員会	1 月下旬～2 月上旬	電通銀座ビル 4F 会議室
第２９回資産運用委員会	2 月 16 日（金）	電通銀座ビル 4F 会議室
修了生交流会	3 月中旬	帝国ホテル（予定）
第４５回理事会	3 月下旬	帝国ホテル

以上